

『笑顔元気くん守り』

ができるまで



御守りの完成までは、昨年度
（こと比ら67号笑顔取り戻そう。
こんぴらさん!!特集号）「幸福の
黄色いお守り」ができるまで
にて掲載されており、皆さまも
ご承知かと思いますが、再度、ご
一緒にのぞいてみましょう。



取材協力：東和産業株式会社

業務製造責任者：取締役部長 松尾貴仁

業務検品責任者：生産管理部課長 宮脇正道

染色匠：井口宏二

整経匠：堀敬次

製織匠：小牧邦生

ミシン場：藤田順子

お守返し機：栗林義明

四ツ目紐付け：安井香・伊藤真理子・大串蓉子

検品場：中路優位子・新田真理子

資料写真撮影：企画業務部 塩見信也



「笑顔元気くん守り」の出来るまで!!



東和率産株式会社
常務取締役 田山弘子

平成二十四年正月から、金刀比羅宮様に新しい御守りが、誕生致しました。御社頭に納められた、その御守りに目をやるなり、誰もが優しい笑顔になれる御守りこそ、「笑顔・元気くん守り」です。

西陣織の生地の中に、金糸にて織り込まれた純真無垢な

「笑顔元気くん」

「可愛い!!」「誰が描いたの?!」「どんな意味合いが?!」など…。沢山のラブコール。それでは、という事で、皆さま方の前にこの「笑顔元気くん守り」が御目見えするまでを、御説明させて頂く事と致しましょう。

忘れも致しません平成二十三年二月六日の夕刻に、琴陵宮司様より、至急に神社に向くようにとの連絡を頂きました。

「わぁー!金刀比羅宮さまに、御納めしている御守りに何か不備でも有ったに違いない。」と、翌七日早朝の、新幹線に飛び乗り、ドキドキしながら、金刀比羅宮様へ参じたのです。

宮司様から、テーブルの上に置かれた愛くるしい元気くんの絵。なんと可愛らしいことでしょう。私は、確実に御叱りを受けると思い込んでおりましたので、かなり顔も心も緊張して強張っておりましたが、一瞬にして、その絵で癒され、笑顔に変わっておりました。これが元気くんと初めての出会いでした。

「これを、御守りにしたいと考えているのだが。どうだろうか。不況、紛争、天災に喘ぐ世の中の人々に、笑顔と元気を与えたい。純真無垢なイメージで、持って居る人が幸せな気持ちに成れる御守りを作りたいのだ。」と琴陵宮司様。

そうなのです。この御守りには宮司様の一方ならぬ温かい御気持ち、が、込められているのです。

心から感動致しました。どんな事が有ろうとも宮司様の思いを、形

にしなければと、心に誓いました。

そして、この日から、「笑顔元氣くん守り」完成までの十カ月に及ぶ、会社を上げての「こんぴらさん詣で」が始まったのです。流れが固まるまでは、極秘プロジェクトでした。

金刀比羅宮の皆さまがお守りに織り込まれた笑顔元氣くんとの、初めての対面は、十月二十四日の金刀比羅宮様研修旅行にて、弊社の工場見学に来て頂いた巫女様達でしたから、「きゃあー!!可愛い!!」「御参りの方々も、喜ばれると思います!!」などの声が飛び交い、安堵したのを思い出します。

完成するまでは、当然ですが産みの苦しみがあります。色、大きさ、形態、仕様など…。

数十種類。約数百アイテムに及ぶ試作の繰り返しでした。連日、弊社でも試作品に対しての、意見交換、アンケート調査を繰り返しながら、宮司様の鋭い御指摘、御指導の下、完成へと、進んだのでした。

この最中に起こってしまった、日本を襲った東日本大震災。

ここ数年に渡る紛争、不況、又それに追い打ちを掛けた、大震災に、深く心を痛められた琴陵宮司様でした。世の中に元氣を！人々に笑顔を一を、強く御考えに成られて、あの「笑顔元氣くん守り」が生まれたのです。

白、赤、青、トリコロールの4種類の笑顔が、社頭に勢ぞろいです。

皆さんは、どの「笑顔元氣くん」が、御好きですか？

この、色にも宮司様の、思いが込められている事を、御存じでしたか？

純真無垢な白(平等)、赤(愛・友愛)、青(自由)、これら全てのトリコロール(希望)との四色に願いが込められています。

この四色に染め上げた糸にて、西陣織の匠により織り上げられているのです。

織物は、経糸と緯糸が、互いに支え合いながら織り上がります。人の営みと同じです。決して経糸だけでも、緯糸だけでも成り立ちません。しっかりと、互いを受けとめながら、支えながら織りなすのです。格子柄もこれを、表現しています。四色の色糸に託された、平等・愛・自由・希望、金糸で描かれた「笑顔元氣くん」の純粋無垢な優しさを、皆さまに幸せとして運ぶべく、一糸織りなしているのです。

又、中に納められている御内符は、御守りを受けられて、手にした人々が、安らぎと温かみを、肌で感じる事が出来る様に、黄色い幸福守り同様に、スポンジ、不織布にて幾重にも、幾重にも包んでおります。

可愛く御守りを納めている純白のオーガンジー巾着袋には、優しく包み込む、帳の意味があるのです。稚児様(神様の御使い)を直接みる事は叶いません。巾着袋から覗く「笑顔元氣くん」の御顔。癒されます。

この様にして、「笑顔元氣くん守り」は生まれたのです。

上記で御説明させて頂いた様に、宮司様の御気持ちの深さを知れば知るほど、作り手として責任と使命感を持ち、従業員一同、心を込めて奉製に取り組んでおります。

それでは、「笑顔元氣くん守り」の、奉製現場を、のぞいてみましょう。



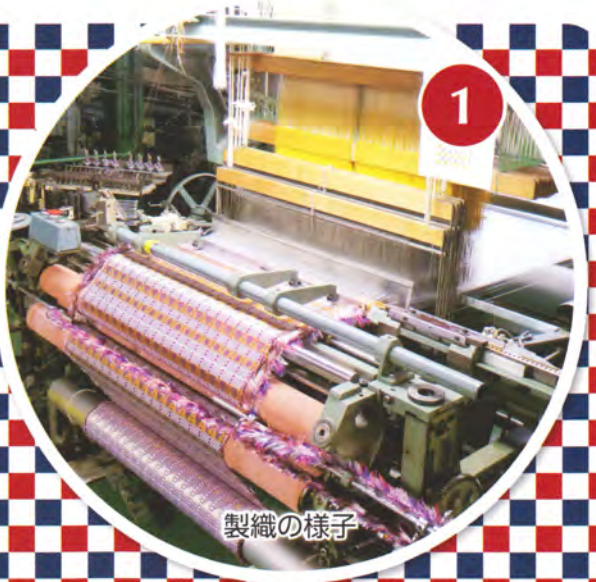


製織

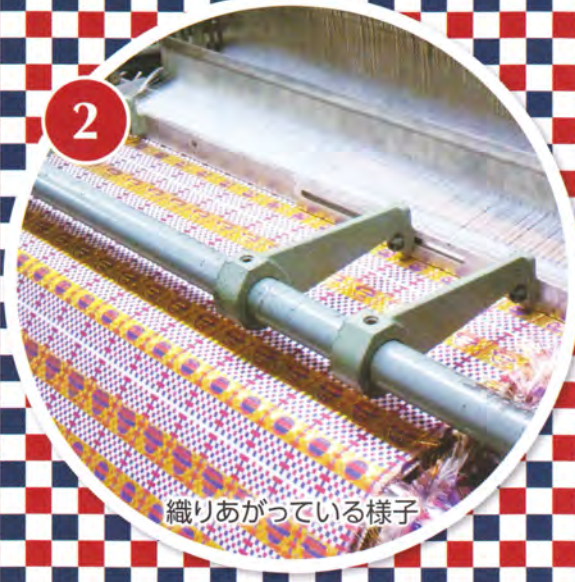


間丁といわれる所

一本一本注意
深く織ります。



製織の様子



織りあがっている様子



笑顔元気くん
守袋の紋図

製織の工程から織り作業の開始です。

間丁で織れ!

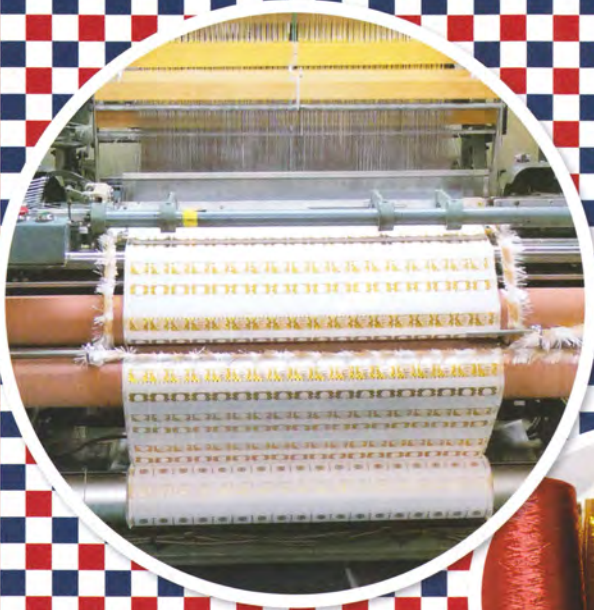
全ての準備が整えばいよいよ織り作業を開始します。織機に柄データを入力して紋図といわれる織物の設計図を確認しながら丁寧に織りあげていきます。織っている最中に糸が切れぬよう一本一本注意深く織っていきます。特に経糸に対しては注意が必要であり、四六八八本の経糸のうち、一本でも切れてしまえば織物にキズがついてしまいます。昔から織物の世界では「間丁で織れ」という言葉があります。この間丁というのは織機の後ろ側の経糸を設置している箇所のことを指しており、経糸の管理がとても重要であることを意味しています。

製織準備

順番通り巻きあげられ整経された経糸をその順番通りに織機につないでいきます。この順番を間違えると織物に影響があるので心を込めて慎重に注意深く手作業で四六八八本の糸をつないでいきます。じつに根気のいる作業なのです。横糸も織物を織る準備として糸繰りという作業をします。

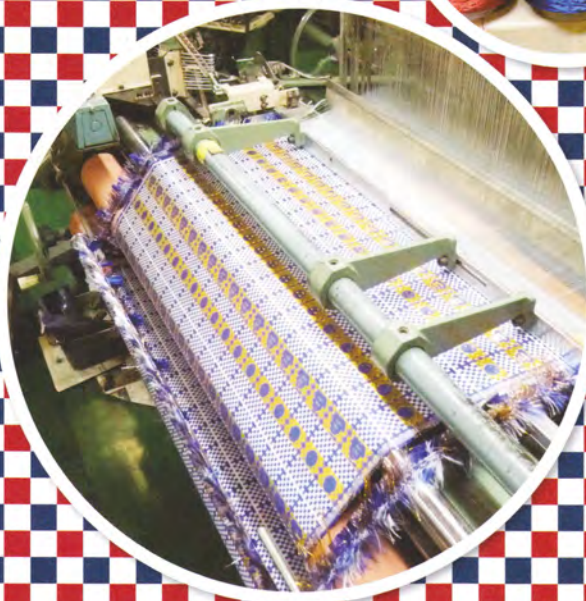


製織



笑顔元気くん守り 白

各色同様に
丁寧に織って
いきます。

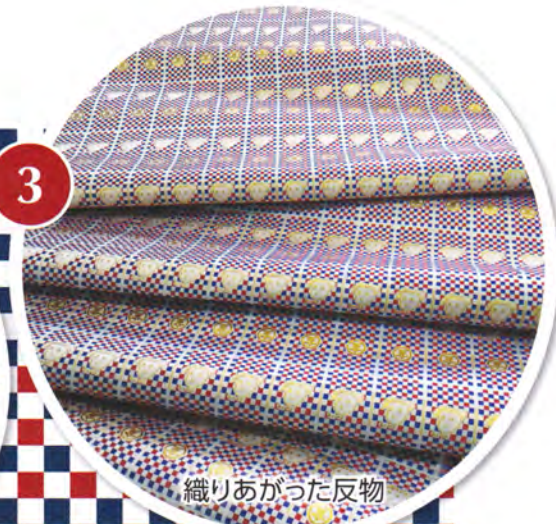


笑顔元気くん守り 青



笑顔元気くん守り 赤

奉製の工程にて、ついに完成を迎えます。



織りあがった反物



ミシン作業



検品作業

キズや汚れがないように、注意して進められます。

御内符について

毎月、御宮よりお預かり致した御内符は、不織布を幾重にも巻き包みまして幸福守の中に納めさせて頂いております。御授けになる皆様笑顔元氣くん守りを指で触れられた瞬間に、フワツとした優しさ、幸福感を感じて頂ける様にとの宮司様のお気持ちの表れでございます。

めがね紐

最後に一番大切な御内符をお入れし、お守り袋を閉じるためにめがね紐をつけます。お守り袋の肩を整えて目打を使ってお守り袋に紐を通して結んで完成です。

かえし作業

かえし作業というのは裏からミシンをかけたお守り袋を表向きにかえす作業のことをいいます。ミシンをかけたお守り袋を縫い目が破れぬよう、慎重に数回に分けて少しずつかえしていきます。かえされたお守り袋は形を整えるため、角出しといわれる作業で形を整えていきます。

裁断 ミシン加工

織りあがった織物は奉製を行う前にさらに織キズや汚れがないかどうかを検品していきます。検品された織物は裁断された後、袋状にミシンをかけていきます。





角出し



小さいので手作業で
かえします

7



かえし作業風景

細かい手作業
が続きます。

9



目打でめがね紐を
通す穴を開ける



8

お守り袋の肩を整える

もうすぐ完成です。

11



紐を結んで完成

10



穴を開けた場所に
めがね紐を通す



完成

以上の様に、色々な工程を慎重にクリアしながら、また各部所の職人の匠の技と勤と何よりお守りに対する尊敬と愛情とが織りなして初めて、金刀比羅宮の「笑顔元気くん守り」が生まれております。

現在まで一度たりとも事故などもおきず、世界中の皆さま方に幸福守が御支持頂いているのは、一重に金刀比羅宮の御神徳の賜物に他ありません。